

年末年始・旧正月における家畜防疫対策の徹底を！

野生いのししにおける豚熱感染は、本県や隣県の岩手県、秋田県でも確認されており発生リスクが高まっています。アフリカ豚熱については、本年10月に台湾の飼養豚において発生が確認されています。

年末年始及び旧正月の時期を迎え、人や物の動きが活発になると見込まれるため、引き続き病原体侵入防止対策の徹底をお願いします！

1 海外への渡航自粛

- ・ 口蹄疫やアフリカ豚熱等の発生地域への不要不急の渡航を自粛すること
- ・ 外国人従業員を受け入れている畜産関係者等は、日本への持ち込みが禁止されている肉製品等を海外から持ち込まれることがないように従業員等に周知すること

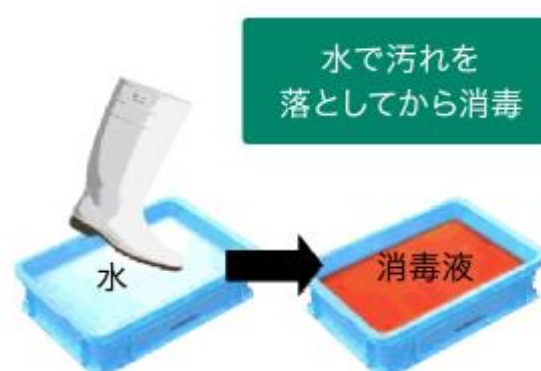


2 病原体の侵入防止

- ・ 衛生管理区域に立ち入る全ての人は車両の消毒、専用の衣服や手袋・長靴の着用、手指消毒等を徹底すること
- ・ 衛生管理区域及び畜舎に関係のない人が立ち入らないよう、境界を明確にして 看板等で注意を促すこと
- ・ 野生動物侵入防止対策を徹底し、現場の「隙」を埋めること



関係者以外の農場への立入を禁止



農場（畜舎）に出入りする際には、消毒を実施

3 健康観察・早期発見・早期通報

△家畜に異状がある場合は
直ちに当所へ連絡を！

異状を発見したら直ちに通報しましょう！

◆豚熱の特定症状

- 1 耳翼、下腹部、四肢等に紫斑が出る。
- 2 以下のいずれかの症状を示す豚が1週間ほどの間に増加している。
 - (1) 40℃以上の発熱、元気消失、食欲減退
 - (2) 便秘、下痢
 - (3) 結膜炎（目やに）
 - (4) 歩行困難、後躯麻痺、けいれん
 - (5) 削瘦、被毛粗剛、発育不良（いわゆる「ひね豚」）
 - (6) 死流産等の異常産の発生
 - (7) 血液凝固不全に起因した皮下出血、皮膚紅斑、天然孔からの出血、血便
- 3 同一の畜舎内において、1週間ほどの間に複数の繁殖または肥育豚等が突然死亡する



耳翼の紫斑



元気消失



結膜炎



うずくまり



パイルアップ



目やに

写真出展：国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門

◆アフリカ豚熱の特定症状

- 症状は多岐に渡り、甚急性、急性、亜急性、慢性の症状を示す。
症状は豚熱と類似しているが、甚急性では突然死亡、急性では発熱、皮下出血、粘血便、チアノーゼなどを呈し、死亡率は100%。



死亡



チアノーゼ

写真出展：国立研究開発法人農業食品産業
技術総合研究機構動物衛生研究部門

《つがる広域家畜保健衛生所》

(平日8:30～17:15) 0173-42-2276(夜間・土日祝) 090-8788-7459